

国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学 学長業績評価 評価書

学長選考・監察会議は、「国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学学長業績評価実施要項」（令和4年4月1日学長選考・監察会議決定）に基づき、学長の就任から3年目にあたる今年度（令和4年度）、学長の間接評価を実施した。

中間評価にあたり、学長選考・監察会議は、教育、研究、社会・地域貢献、国際交流、大学運営の各項目について、令和5年1月20日に学長からの業績報告を求め、ヒアリングを実施し、令和5年3月17日に学長の業績評価を決定した。

1. 学長による自己評価

● JAIST 未来ビジョンの作成

北陸先端科学技術大学院大学は、独自の研究の高度化と先鋭化を進めつつ、国内外の大学や研究機関、産業界とのグローバルな連携に基づく新たな共創により、科学技術の未来を拓き世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点としての『世界トップの研究大学』へと飛躍するためのビジョンと基本戦略を策定し、その実現に鋭意努めてきた。また、全学一研究科体制の下、意欲に溢れた学生を国内外から広く受け入れ、産業界の知を教育にも活用し、専門性の高い研究室教育と先進的な教育カリキュラムを体系化し、新たな時代を先導する『しなやかな強さと共創力』を備えたグローバルリーダーを育成する方策を具体化した。

● 研究大学としての発展・振興

- ・Scopus 論文数や被引用数、科研費獲得実績、学生獲得実績などの様々なデータを整理し、SciVal を用いて本学の研究力の現状を可視化し、研究力強化に向けた取組みを始めた。
- ・研究成果のグローバルな発信の強化を図った。これにより、例えば、SciVal の指標 Societal Impact（オンラインメディアによる言及数）の令和2年の件数が対前年比6.4倍の282件と大幅増を実現した。
- ・世界トップレベルの研究者の獲得と支援・育成（科学技術の未来をリード）を行う仕組みを作り、教員人事の強化を図った。
- ・エクセレントコア推進本部を共創的国際研究推進本部に改組し、国内外の研究者・研究機関・大学との世界をリードする国際連携・共創を推進した。
- ・研究大学としての発展に必要な競争的資金の獲得を支援するため、URA の機能・役割を拡張し、外部資金獲得タスクフォースを設けた。
- ・産業界のニーズの把握、研究推進、研究成果の創出、社会実装等を促進し、社会的インパクトにつながるイノベーションの創出に寄与することを目的として「産学官連携本部」を「未来創造イノベーション推進本部」に改組した。
- ・JST 博士後期課程学生支援プログラム、新規支援制度を基に、博士後期課程の充実を図った。

● 教育研究制度と学内組織の改革

- ・一研究科のメリットを生かした教員間の連携・共創により、新しい研究分野・研究領域を開拓し、イノベーションを創出するため、「領域再編タスクフォース」を設置し、既存の領域を新たな10研究領域へと改編した。
- ・北陸地域の企業や自治体のデジタル化を共同研究ベースの取組みにより支援する「デジタル化支援センター」と、本学自身のデジタル化を推進する「情報環境・DX 統括本部」及び「遠隔教育研究イノベーションセンター」を設置して、デジタル化関連組織の整備を行った。
- ・事務組織・人事制度の改革と管理職人材育成のために人員配置最適化を実施した。
- ・学長の政策立案機能を強化するための新たな組織として「大学総合戦略室」を創設し、全

- 学的な将来構想・戦略業務及び研究分析業務を集約して、戦略的な法人運営を推進した。
- ・会議体の合理化の観点から教育研究戦略会議と運営企画会議を廃止し、新たに総合戦略会議を設置した。
- ・責任ある学位プログラムの管理体制を整備するとともに、これまでの学系を廃止し、教授会の下に代議員会を設置し、合わせて恒常的な合議体として学位別教員会議を置き、一研究科として一体的な運営が可能な研究科運営体制に改革した。
- ・学長と理事3名（＋研究科長）による懇談会を毎週開催し大学運営のために密な連携を図った。また、内に開かれた大学の取組みとして、「プレジデントダイアログ（学長との対話）」を継続的に行った。
- ・教育改革（入試改革、修了基準の統一、遠隔教育研究システムの確立）を実施した。
- ・JAIST 国際セミナーハウスを新たに設立し、国内外からのゲストの招へいや学生の受入れ環境を整え、学生の獲得を含む本学の教育・研究のさらなる活性化を図った。

● 中央官庁や公的機関との連携の強化・推進

- ・各種外部資金の獲得に必要な情報収集、調査・分析、中央省庁等の行政機関に対する提言などを任務とした組織「外部資金獲得支援タスクフォース」を設置した（令和4年4月からは、未来創造イノベーション推進本部内に位置付けた）。タスクフォースの支援による以下の大型外部資金を獲得した。
- ・令和3年度 経済産業省「J-NEXUS 産学融合先導モデル拠点創出プログラム事業」（北陸 RDX、5年間、総額2.5億円）に採択され、北陸地域の国立大学と経済団体、自治体（産学官金の18参画機関と8協力機関）が連携する産業のデジタル化（RDX）を推進した。
- ・経済産業省の「第3回 地域オープンイノベーション拠点選抜制度」に採択され、地域オープンイノベーション拠点（地域貢献型）に認定された。
- ・令和3年度「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」（Jイノベーションプラットフォーム型）（総額2.5億円）に採択され、「超越バイオメディカル DX 研究拠点」を創設した。
- ・内閣府、総務省、NEDO 等との連携強化・推進に努めた。

● 社会貢献の推進・発展（産学連携・地域連携の強化）

- ・北陸経済連合会との連携の強化、北陸4国立大学の連携の強化、地域自治体・地域企業との連携の拡大を行った（RDX アライアンス、未来共創フォーラム、デジタル田園都市特区への支援）。
- ・Matching HUB（産学官金連携マッチングイベント）のさらなる発展を図った（M-HUB 長岡・北陸、全国展開、M-BIP 学生コンテスト、RDX アライアンスとの連携の発展）。
- ・学位の取得を目的としない、特定分野の専門知識や専門スキルの修得を目的とした社会人向けのリカレント教育を推進するため、新たにリスキル・リカレント教育センターを設置した。また、「デジタル化支援センター」を活用して、デジタル化人材の育成と産学連携の教育を進めた。
- ・東京サテライト、デジタル化支援センター、リスキル・リカレント教育センターを活用して社会人教育を展開、強化した。
- ・サイエンスパークの活性化を図った（J-イノベーションハブの活用）。

● 学生募集の推進・改革

- ・学生募集を含めた広報活動の強化と一元管理のため、教育担当理事の元に新たに広報室を設置し、広報の強化、推薦入学制度・インターンシップ制度の拡張により安定した学生獲得に努めた。
- ・学生獲得タスクフォースの体制により学生募集のための様々な取組みを進めた。
- ・私立大学4校と教育・学術交流協定及び推薦入学協定を締結した。
- ・企業と連携した学生支援を開始した（産学官連携客員教授の活用）。

● 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症への対応

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症への対策を迅速かつ的確に進めるために危機対策本部を設置し(令和2年4月7日)、授業や入試のオンライン化の取組み、学生への経済的支援の取組み、学内への注意喚起の取組みなど種々の対策を講じた。

● 創立30周年記念事業

令和2年10月1日に創立30周年を迎え、10月2日に記念式典及び記念講演会を挙行了た。また、令和2年10月～令和3年3月にかけて、国内・国際シンポジウムを開催して創立30周年を祝すと共に最先端研究情報を発信した。

2. 学長選考・監察会議による評価

- ☒ 期待を大幅に上回る業績である
- ☐ 期待を上回る業績である
- ☐ 期待する程度の業績である
- ☐ 期待を下回る業績である

以下、学長による業績報告とヒアリングに沿って評価内容を記述する。

北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)は発足から30年以上が経過し(令和2年10月1日:創立30周年)、この間、先端科学技術分野では急激な進展と変容が見られる一方、我が国の大学・研究機関による研究成果の世界的なプレゼンスは相対的に低下し、先端科学技術に依拠する産業部門のイノベーションも停滞傾向を辿ってきた。この状況はJAISTのミッションの重要性が益々高まってきたことを示すものであり、ミッションを先導する学長の業績は、これを文脈として踏まえた上で評価を行うべきと思料する。さらに、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症のパンデミックという様々な面で制約を受ける困難な時期に学長に就任された。このような状況下、学長就任後、積極果敢に研究大学としての様々なプレゼンスの向上と改革に努めた。具体的な取り組みの内容は極めて広範かつ多岐に亘り、学長就任後、僅か3年間の実績としては誠に瞠目させられるものがある。まず、JAISTの将来ビジョンを「イノベーション創出拠点として、世界トップの研究大学」を目指すものとしての確に再定義した。その上で研究大学としての発展、教育研究制度と学内組織の改革、中央官庁や公的機関との連携の推進、産学連携・地域連携等の社会貢献の推進・発展、学生募集の推進・改革等が、ビジョンの実現に向けた一貫性のある取り組みとして実施されてきた。その成果は、短期間の間に複数の大型外部資金の獲得を実現する形で顕在化している。これらの取り組みと業績は、寺野稔学長の卓越したリーダーシップとマネジメントによるところ大であり、特筆すべきものとして高く評価したい。また、こうした対外的訴求力を持つ取り組みばかりではなく、学生の就学環境の改善や、教職員の意見や希望を聴取する対話の場“プレジデントダイアログ(学長との対話)”を設定する等、常に組織内に向けた配慮が重要な活動の一環をなすものとして位置づけられてきたことは、高く評価し敬意を表したい。

上記取組の中で特に優れた具体的な業績を以下に述べる。

● JAIST 未来ビジョンの作成と基本戦略

学長の政策立案機能を強化するための組織として「大学総合戦略室」を創設し、「JAIST 未来ビジョン」策定や研究領域再編に関する検討を行う等、戦略的な法人経営を推進している。「大学総合戦略室」の下には「総合戦略会議」を設置し、本学の戦略に関し企画検討・調整を行った。学長、理事、研究科長による懇談会を毎週開く等、執行部の意思疎通も図ってい

る。「JAIST 未来ビジョン」において、“JAIST は、国内外の大学や研究機関、産業界とのグローバルな共創により、科学技術の未来を拓き世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点として世界トップの研究大学を目指す”としている。また、“全学一研究科体制の下、意欲に溢れた学生を国内外から広く受け入れ、先端科学技術の確かな専門性を持ち、新たな時代を先導する“しなやかな強さと共創力”を備えたグローバルリーダーとして育成する”としている。「JAIST 未来ビジョン」を達成するための基本戦略として、研究においては、JAIST 独自の研究の高度化・先鋭化とグローバルな共創的イノベーション創出研究を推進し、教育においては、“しなやかな強さと共創力”を備え自主性に富んだグローバルリーダーの育成を進め、社会貢献においては、高度でダイナミックな社会連携と多彩なリカレント教育による人材循環により世界の持続的な発展に貢献し、また、経営においては、組織・業務改革と人事マネジメント改革に基づく戦略的経営を進めてきた。「イノベーション創出拠点として世界トップの研究大学を目指す」ものとして定義され具体化された JAIST 未来ビジョンと基本戦略を高く評価したい。

● 研究大学としての発展・振興

高く評価される業績

- ・世界トップレベルの研究者の獲得と支援・育成
- ・世界をリードする国際連携・共創への取組みの推進
- ・競争的資金の獲得
- ・博士後期課程の充実（JST 博士後期課程学生支援プログラム、新規支援制度）

カーボンニュートラルの達成などの社会課題に対応するため、本学の重点分野の研究について戦略的に支援を行い、産業界のニーズの把握、研究推進、研究成果の創出、社会実装などを促進し、社会的インパクトに繋がるイノベーションの創出に寄与することを目的として、「産学官連携本部」を「未来創造イノベーション推進本部」に改組した。また、エクセレントコア等の研究戦略・研究環境に関する企画立案や管理運営を行うことに加え、JAIST における研究上の強みを中核として国内外の大学や研究機関とのネットワークにより構築される共創的イノベーション創出拠点の形成を推進するため、「エクセレントコア推進本部」を「共創的国際研究推進本部」に改組した。これらの改組は社会課題に対応するためのイノベーション創出拠点の強化として高く評価できる。

世界トップの研究大学を目指すためには人材の獲得が重要である。世界レベルの若手教員の積極的な採用を推進するため、学長裁量による世界トップ人材の獲得を進めていることは高く評価したい。不断の努力を期待し、更なる成果が待たれる。

JST博士後期課程学生支援プログラム、新規支援制度を基に、博士後期課程の充実を図った。また、現在の日本では経済面及び多くの企業からの評価が厳しい博士後期課程学生を、積極的に支援するプログラムを策定する等、大学院大学としてのプレゼンスの一つでもある博士後期課程学生の支援制度の充実を図り、結果を出したことは非常に高く評価できる。

● 教育研究制度と学内組織の改革

高く評価される業績

- ・社会要請に即応した研究領域改編、研究科運営体制の改革
- ・管理職・リーダーの育成
- ・大学総合戦略室の強化と活用
- ・教育改革（修了基準統一、遠隔教育研究システム確立）

学長のトップマネジメントの下、前例主義に固まることなく、組織的なマネジメント力を発揮して、教育研究制度と学内組織の改革が実行されたことは高く評価できる。一研究科のメリットを生かした教員間の連携・共創により、社会要請に即応した新しい研究分野・研究領域を開拓しイノベーションを創出するため、既存の領域を新たに10研究領域に再編した。

再編にあたっては、領域再編タスクフォースを設置し、教員の意見を十分に反映させ、IRによる研究力分析を踏まえつつ、新研究領域の名称、概要等が取り纏められている。研究領域再編の成果が出るには一定の期間と不断の評価が必要であり、今後を期待したい。

一研究科としての一体的な運営体制を構築するため、責任ある学位プログラムの管理体制を整備すると共に、これまでの学系を廃止し、教授会の下に代議員会を設置することにより、一研究科として一体的な運営体制を整備した（令和5年度からの研究科運営）。異なる分野間の一体的な学位質保証は極めて重要である。

JAISTにおける教育活動、研究活動、大学運営活動の総合的なデジタル化を推進するために、「情報環境・DX統括本部」及び「遠隔教育研究イノベーションセンター」の設置を決定したことを高く評価すると共に、今後の活動に期待したい。

事務部門の強化にも努めている。学生募集と広報の一体化のために広報室を設置し、学生募集と研究成果に関する情報発信を強化した。また、本学プロパー事務職員の管理職への登用を促進し、教職協働体制を強化している。JAIST未来ビジョンの実現に繋がるものである。

● 中央官庁や公的機関との連携の強化・推進

高く評価される業績（大型外部資金獲得）

- ・文科省（CN コアリション）
- ・経産省（J-NEXUS、J-イノベーションハブ）

学長直下に、各種外部資金の獲得に必要な情報収集、調査及び分析、中央省庁等の行政機関に対する提言等を任務とする組織「外部資金獲得支援タスクフォース」を設置した。タスクフォース支援による大型外部資金獲得事例として、令和3年度「J-NEXUS 産学融合先導モデル拠点創出プログラム事業」（総額2.5億円）に採択、「第3回地域オープンイノベーション拠点選抜制度（J-イノベーションハブ）」に採択（経産省が地域オープンイノベーション拠点（地域貢献型）に認定）、令和3年度「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」（超越バイオメディカルDX研究拠点、総額2.5億円）に採択等、その業績は特筆すべきものである。更に、内閣府、総務省、NEDO等との連携の強化・推進を図っている。J-NEXUSはJAISTがリードし、北陸地域の国立大学と経済団体、自治体が中心となって産業のデジタル化（RDX）を推進するものであり、また超越バイオメディカルDX研究拠点は、北陸地域に技術的基盤たるヘルスケア・医療分野をテーマとした研究拠点形成であり、令和5年2月末に、技術や知識をシェアして共創する新しいコンセプトのシェアードオープンイノベーション施設が完成した。地域企業やグローバル企業が集い共感し共創する場が創出され、Matching HUBやJ-NEXUSプロジェクトとの連携を通して、JAISTが更に発展する強力な拠点となるものと期待される。

● 社会貢献の推進・発展（産学連携・地域連携の強化）

高く評価される業績

- ・北陸経済連合会との連携強化、北陸4国立大学の連携強化、地域自治体・地域企業との連携拡大（RDXアライアンス、未来共創フォーラム、デジタル田園都市特区への支援）
- ・Matching HUBの発展（全国展開、RDXアライアンスとの連携の発展）
- ・社会人教育の展開（東京サテライトの活用、デジタル化支援センター設置、リスキル・リカレント教育センター設置）
- ・サイエンスパークの活性化（J-イノベーションハブの活用）

JAISTの社会貢献として産業界との連携がこれほど進み、且つ、充実しているのは、寺野学長でなければできない偉業と言える。敬意を表すると共に高く評価したい。

デジタル化関連組織の整備として、令和3年に北陸地域の企業や自治体のデジタル化を支援する「デジタル化支援センター」を設置し、企業におけるデジタル化推進、デジタル化に対応した製品開発を共同研究ベースで支援すると共に、スマートシティ、スーパーシティの

実現に向けて自治体などにOJTの共同研究の場を提供している。地域・企業との連携が多様かつ積極的であり、大学と地域・企業の双方にとって非常に望ましいと考える。

寺野学長と JAIST が主導してきた独自の産学官金連携マッチングイベント“Matching HUB”は、2022 年度で第 9 回目を数え、北陸だけでなく全国から 1500 名を超える参加者を得て、幅広い分野の企業や大学のニーズ・シーズの出展をもとに、出展者同士の産学官金の異分野・異業種の交流、産学官金連動の育成支援、学生を対象としたビジネスプランコンテスト等が含まれ、極めて独創的なイベントとして確立され、新産業創出、人材育成、地域活性化等への JAIST のプレゼンスの向上に大きく貢献している。

社会人教育の展開も図っており、東京サテライトの利用、デジタル化支援センターの活用に加えて、新たにリスキル・リカレント教育センターを設置し、リカレント・リスキル教育推進体制の整備を行った。将来を見据えて JAIST が発展する体制整備と高く評価したい。

● 学生募集の推進・改革

高く評価される業績

- ・安定した学生獲得（広報の強化、推薦入学制度・インターンシップ制度の拡張）
- ・企業と連携した学生支援（産学官連携客員教授の活用）

少子化時代に入り優秀な学生獲得は極めて重要である。これまで、定員充足の重圧に苦しめられ、卓越した学生を十分に獲得することができず、それが研究面において飛躍的に発展すべく教員を動機づけるメカニズムが効果的に機能しない遠因とも成り兼ねなかった。そのために学生獲得タスクフォース体制を作り、学生募集のための新たな取組みを進めている。学長リーダーシップによる産学連携面での強力な展開は、中長期的にJAISTのプレゼンスを高め、意欲の高い国内外の学生を始め、優れた教員を獲得する原動力になり得るものと評価し、今後の進展に期待する。

以上、寺野稔学長は世界トップを目指す研究大学としてのJAISTの発展に極めて多くの業績をあげ多大な貢献を果たしてきた。学長就任以来3年間、理事を含めた執行部の理解・協力を得て、JAISTの大学改革と経営に誠心誠意、強い信念を持って全力で取り組んできており、学長の傑出した業績・成果及びリーダーシップ・トップマネジメントに対し高く評価する。

結論として、学長選考・監察会議は、寺野学長の業績は元々の大きな期待をさらに大幅に上回る業績であると認め、「期待を大幅に上回る業績である」と評価する。

3. 今後に向けての要望（補足）

寺野学長の就任以来3年間の業績は極めて大きいと評価した上で、評価補足として、期待を込めて今後に向けての課題・要望を以下に列挙する。

- ・多岐にわたる戦略、方策、対策が発散することなくJAIST未来ビジョンを実現し、JAISTの価値向上に集約することが望まれる
- ・国際戦略については具体的なターゲット絞込みと対策に学長のリーダーシップを期待する
- ・再編した領域数及び各名称が学生や部外者にとって理解しやすく妥当なものであるか、今後検証が必要である
- ・教務関係ではカリキュラム編成という課題が未着手である
- ・研究科運営体制における改革はこれまでの課題を積極的に解決するために実施されたものとするが、更なる改革を期待する
- ・世界トップの研究大学を目指すために、客観的研究力指標であるSciValスコア等の一層の向上に努め、優れた教員のリクルートが必要である

- ・世界トップの研究大学の実現に関しては、JAISTの特殊性や独自性をもっと活かし、グローバルニッチトップを目指す戦略、新しい分野にチャレンジできるための評価方式、教員の長所を最大限生かすポートフォリオ的なヒューマンリソースマネジメントも検討が必要と思われる
- ・基礎科学に根ざした大学院教育こそが世界トップを目指す研究大学の必要条件であり、規模が小さいJAISTこその特長を見せた教育に関する取り組みと展望を期待する
- ・国内外からの学生獲得のために、JAIST独自の特徴を全面に押し出すことがよいのではない
- ・理事を始めとする大学執行部による運営体制が構築されているとは言え、戦略的にJAIST未来ビジョンを展開するための持続的な体制を創り上げて欲しい
- ・開かれた大学運営として、大学の経営方針や組織改革についての学内向けの説明の機会を継続的に設けることが望ましい

以上の課題・要望は、いずれにしても、学長就任以来3年間の極めて大きな業績・成果を前提とした前向きな課題・要望事項である。今後とも一層のリーダーシップを発揮し、JAISTが抱える課題を一つ一つ解決し、世界トップを目指す研究大学としての存在感を強めながら進み続けることを確信し、寺野学長に大きな期待を表したい。

「学長業績評価実施要項」に基づいて学長就任後3年間の業績を評価したが、残りの学長任期期間において、JAIST 未来ビジョンで構想された魅力的で的確なアイデアの実質化や未着手・未達項目の取組み、更には社会状況に応じJAIST未来ビジョンの見直しと深化した行動計画の改定、及びそれらによるJAISTの継続的な発展に大いに期待し、学長選考・監察会議はその実現に協力を惜しむものではない。